

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファミ財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



夢と一緒に
どこまでも



ご挨拶

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

キッズファミ通信第7号をお届けします。前号が発行された少し後に新型コロナウイルスのパンデミックが起こり、世界中が大変なことになってしまいました。

2月中旬にはキッズファミカフェが休止となり、3月末に予定されていた第3回 医療的ケア児（者）・家族の主張コンクールは延期、今年度の理事会、評議員会も全て書面で済ませざるを得なくなりました。

世間は外出の自粛を求められ、学校は休校、お店の多くはシャッターを降ろしています。長期の巣籠もり状態のイライラの中で私は読まずに積んであった本をかたっぱしから読むことにしました。その中で素敵なお歌に出会いました。文化年間、今から200年ほど前、越後の国で天然痘が大流行し、

たくさんの子供が死んだ、その時にあの良寛が読んだ5首の歌です。「世の中のおやのころにかはりてよめる」との前書きがついています。その中の2首を掲げます。

人の子の遊ぶを見ればにわたづみ流るる涙とどめかねつも（「にわたづみ」は庭の水溜りの意で「流るる」の枕詞。）

もの思ひすべなき時はうちいでて古野に生うるなずなをぞ摘む（「古野」は子が遊んだ野原。「生うる」は生えるの意。）

当時の人々は、これを読んで涙を流し、救われた気がしたに違いありません。200年以上も前に無一物に徹する道を歩き、草庵にひとり暮らしながらこれほどあたたかく、やさしく、深い愛情を人々に注いだ日本人がいたのだと思っただけで少しほっとしました。ゆったりした気分のお裾分けです。

☆財団の主なイベントご紹介

■チャリティコンサート

中村天平 「親子で楽しむチャリティコンサート」

2020年1月13日(月)13時より、東京都世田谷区の成城ホールに於いて、中村天平さん(ピアノ)と宇都宮直高さん(ヴォーカル)によるチャリティコンサートを開催いたしました。医療的ケアのあるお子さんとそのご家族約20組も含めて約250名の参加者があり会場はほぼ満席となりました。

昨年の欧州ツアーから帰国後、ますます円熟味が増した中村天平さんの力強いピアノと、劇団四季のライオンキングで主役のシンバ役をされた宇都宮直高さんの心に響く歌のコラボは素晴らしく、会場が一体となって、生の音楽に満たされたひと時を持つことができました。

オープニング曲の「一期一会」、引き続いて熊野古道をイメージした「神宿る道」のピアノ演奏で、聴衆の皆さんは心をグッとつかまれました。その後、宇都宮直高さんによるライオンキングのメインテーマ、「Can you feel the love tonight」やアラジンの「Whole new world」で会場は大きく盛り上がり、天空の城ラピュタの主題歌「君をのせて」を参加者みんなで合唱しました。

後半は中村天平さんのオリジナル曲、「組曲 クロードモネと私」から始まり、楽しいトークと共に、力強いピアノと歌が繰り広げられました。

また、宇都宮直高さんは歌いながら会場を回って子どもたちとハイタッチしていました。

「普段なかなかコンサートに行けない子どもたちに、生の音楽を聞かせたい!!」という財団創設者の喜谷昌代の思いから始まり、今回は病気のあるなしに関わらず、子どもたちが同じ時間と空間を共有し音楽を楽しんで欲しいという思いが実現したコンサートでした。

コンサート終了後、募金にご協力いただいた方も多く、またロビーでは写真展を同時開催し、多くの親子の皆さんが立ち止まって観ていました。



中村 天平さんの演奏



宇都宮 直高さん



砧南中はじめボランティアの皆さん

今回も無償で、ご協力くださった中村天平さんと宇都宮直高さん、そしてボランティアでお手伝いいただいた砧南中学校の皆さま、関係者の皆さま、お菓子を提供いただいた(株)ロッテ様に心より感謝いたします。

今回のコンサート開催するにあたり、ご協力いただきました成育医療研究センターの余谷暢之(よたにのぶゆき)先生より下記のコメントをいただきました。

「こどもたちに本物を生で届けたい」この思いで、企画したコンサートでしたが、出演者のご厚意でピアノの間近に座れるこども向けの席を用意することができ、また会場前方をフラットにすることで、車いすやバギーの子たちもピアノと同じ高さで、間近に感じて頂ける配置が叶いました。

こどもたちは目の前のピアノから奏でられる音、ヴォーカルの迫力をからだいっぱいを感じているようでした。会場に参加されたおとなの方々も、音楽だけでなくこどもたちが楽しむ様子も一緒に楽しんで頂けているように感じ、本当に温かい空間でした。

これからもこのように音楽を通じてこどもたちが繋がれる場が作れるよう取り組んで参ります。



出演者を間近にして

アンケートのコメントご紹介

- 子連れOKのコンサートは殆どなく、生の音を聞かせたかったのでとても良かった。
- 素敵なピアノ演奏とサプライズの歌が本当に素晴らしかった。
- ピアノのすぐそばで目の前で聴けて、子ども私も釘付けでした。
- バギーや吸引器などがあっても気にすることなく、本物の音楽に触れることができ感激しました。
- 会場もバリアフリーで車いすのまま参加でき、アットホームな雰囲気でした。
- 子どもだけでなく大人も満足させるクオリティでした。また開催して欲しいです。

■活動紹介展示

～子育ての輪をひろげよう～

1月27日～2月7日、NHK放送技術研究所（世田谷区砧）の展示スペースで、“きぬた★手をつなごう会”注の「活動紹介展示～子育ての輪をひろげよう～」を開催しました。玄関を入るとすぐに広がる開放的なスペースで、だれでも自由に見ることができました。

当財団はファミリーフォトプロジェクトで撮影した家族写真を展示し、ご覧いただいた皆様から次のような感想をいただきました。

- みなさんの笑顔、そして思いに胸がぐっと、心がきゅっとしました。
- 家族の笑顔が人間の尊厳そのものですね。
- この瞬間が得られるまでの道のりは、親と子のキズナの深さかなと…
- かندとうのさくひんがたくさんありました。またみたいです。
- 幸せと愛を感じる時間を大切に生きて参りたいと感じました。

注）“きぬた★手をつなごう会”…砧地区で子育て支援活動をしている有志の集まり

■研修会

「重篤な疾患をもつ子ども・家族と“これから”について話し合う～アドバンス・ケア・プランニングについて学ぼう～」

2020年2月3日、国立成育医療研究センター講堂にて、国立成育医療研究センター総合診療部、緩和ケア科診療部長、余谷暢之先生による研修会を実施しました。

アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning: 以下ACP）とは患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や選好を明確にするプロセス



余谷先生のレクチャー

そこには終末期の話し合いのためらいや、子どもの意思決定の難しさ、両親の治療に対する希望など、さまざまな問題があることが説明されました。

後半は数人ごとのグループワークが行われ、終末期の子どもの事例を考えたり、もし、自分が余命わずかになった場合に大切にすることをカードゲームで学ぶ機会をもつことができました。患者家族の方や、医療従事者、教育関係者などの方に参加いただき、講義とグループワークによるアドバンス・ケア・プランニングの研修が無事終了しました。



グループワークの風景

ご参加いただきました皆さま、ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

■チャリティカフェライブ

偶数月の第3水曜日に、成育向かいにあるカフェアパルトメント183にてチャリティライブを開催しています。医療的ケア児や地域のお子さん方、音楽好きな多くの方々にご来場いただいています。

■12月18日

ディサロ水城さん（歌手）と高野弘さん（キーボード）による演奏がおこなわれ、クリスマスらしい「ジングルベル」「アナ雪」をはじめ、お子さんと一緒に考えながらの「グー・チョコ・パー」の手遊び、トトロの「さんぽ」、そして水城さんのオリジナル曲の数々が歌われ、パワフルかつ透明な歌声は多くのお客様を魅了していました。最後には全員で「もろびとこぞりて」と「きよしこのよる」を歌い、クリスマスの雰囲気包まれた温かいライブとなりました。



会場がひとつに

■2月19日

齊藤真生さん（ボーカル&ギター）と鎌田朗さん（パーカッション）による演奏がおこなわれ、日頃は、夜のライブでロックも演奏されるお二人ですが、優しい雰囲気と爽やかな笑顔で、温かみのある和やかなライブとなりました。軽快なリズムの曲では、小さなお子さん達がノリノリ、全身で音楽を楽しんでいました。演奏後には、お子さん達がカホン（木製の箱にまたがって叩くペルー発祥の打楽器）を中心にウィンドチャイムやシンバルにも触れ、演奏者と共に楽器に触れるひとは、このライブならではの光景です。



息の合ったデュオ

※4月15日に予定していた瞬時さんのパフォーマンスは、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となりました。

■成育医療研究センターのロビーでの写真展

キッズファム財団では、写真スタジオなどで記念写真を撮る機会のない（あるいは困難な）お子さんとご家族の写真をカメラマンが撮影してプレゼントする「ファミリーフォトプロジェクト」を活動の一環として行っています。

それらの写真の中で、許可を頂いたご家族の写真を成育医療研究センターのロビーに展示しています。

ボランティアの方々が、季節ごとに飾りつけを考えて写真と共に展示しています。最近ではご家族からの心のこもったコメントもいただき写真の下に飾っています。ロビーで立ち止まり、じっくり読んで下さる方から「笑顔がとても素敵でコメントを読むと心に響き涙がこぼれそうになります。素晴らしい写真です。」とのお話を伺いました。皆さま是非お立ち寄りください。





英国だより(4)

喜谷 喜夫



この冬のロンドンや我が家の辺り（ロンドン郊外ウインザー）では雪が降った事は数回ありましたが、雪が積もった事が無い冬でしたが、その後中々暖かくならずイースターが過ぎてやっとやっと春に。我が家の庭も例年の様に綺麗な花々が次々に咲いて居ります。然し残念なことに英国でも皆様ご存知のコロナウイルス感染症の蔓延ですべてがストップして居るのが現状です。毎週のスーパーへの買い物も控えて、メールオーダーで宅配してもらい命をつないで居ります。

英国のEU離脱の件は色々和紆余曲折がありますが、昨年12月の総選挙の結果は保守党が大勝し、ボリス・ジョンソン首相はやっとの事で本年1月31日を以て英国のEUからの正式離脱を実現する事が出来ました。然しながら今年末までの移行期間中にEUや日本を含めた諸外国との自由貿易協定を含む諸条約をまとめ上げる必要がありますが、コロナウイルス感染症も絡み時間的にも完了できるか、未だに不安要素が沢山あります。

コロナウイルス感染症については、あっと言う間に感染者数

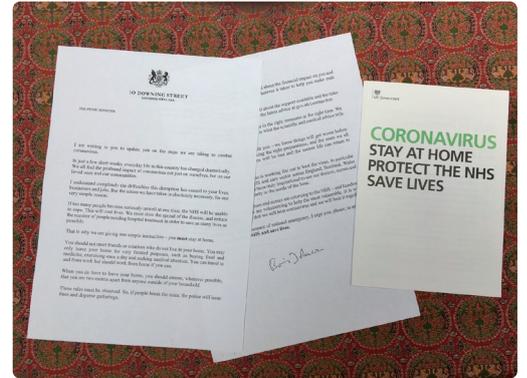
も死亡者数も日本を追い越してしまい、ジョンソン首相自身も感染してしまい入院し3日間の集中治療室も経験しました。それでも英国政府の対応は結構早く、



庭の薔薇が咲きました

積極的であった為、効果は見えてきました。3月末頃「STAY AT HOME」を呼びかけるボリス・ジョンソン首相のサイン入りの手紙とパンフレットが英国全国の各家庭に郵便で配達されました。学校も休校、職場も自粛、国民も積極的に協力した結果でした。5月下旬頃には外出禁止も解除されることを期待して居ります。

英国の政治の上で、今回のコロナウイルス禍の結果で特に申し上げたい事があります。今まで何回も予算をカットされていた医療、介護、福祉の



ジョンソン首相からの手紙

分野で見直しが始まる様です。英国の健康保険制度NHSは第二次大戦後の1948年に労働党政権により開設されたのですが、その後現在まで幾度も改革されてきました。年々増加を続けて行く医療費は何回も改革や予算カットが繰り返されて来ましたが、今回の禍に遭遇し、人間の命を守る為にはもっとお金を掛ける必要を感じた政治家が増えた様です。ジョンソン首相ご自身も経験されて予算カット派から増額派に変更されたと聞いて居ります。この事は英国だけの問題ではなく、日本でも考え直さなければならない問題でしょう。

今回は私自身STAY AT HOMEで3月中旬から自宅以外を自粛している為、外部の様子はお伝え出来ませんが、テレビやインターネット等で得た情報をお伝え致します。

付き添いも治療のうちです!

私の息子は元気に幼稚園に通っていた5歳の時、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)を発症し、国立成育医療研究センターの前身だった国立小児病院に入院しました。はじめは重症のてんかんと診断されましたが、けいれんがひどく脳波計の針が振り切れてしまうほどで、抗けいれん剤も効かず即入院になりました。国立小児病院は当時、面会時間は日・火・木曜日の14:00～18:00、完全看護で付き添いはできません。今では考えられませぬ。

入院が決まり病室へ行ってから、発作がひどいためにぶつかっても衝撃を柔らかくなるように、妻は看護師とともにベッドの柵を大きなタオルでぐるぐる巻きにして、準備しました。作業が終わると看護師長さんが何度も帰るように言うのです。「責任をもってお預かりしますから」。しかし妻はがんと動きません。男親の私などただオロオロするばかりでしたが、5歳のこんな状態の息子を置いては帰れないとい

難病のこども支援全国ネットワーク 小林 信秋

う想いだったのでしょ。

妻は動きません。その時そこに居合わせた主治医が突然師長さんに、「付き添いも治療のうちです!」と断固とした口ぶりで行われました。そのまま妻は退院までの1年3ヶ月付き添ったのでした。子どもを想う母親ってすごいです。主治医もお子様をお持ちの女医さんでしたが、きっと妻の姿に同じ母親として共感して下さったのだと感じています。



※今回、執筆いただきました小林信秋さんには当財団の監事として開設以来4年間お世話になりました。

OriHime (オリヒメ) と私

山田 萌々華

私は光明学園の小学部6年生です。私は1年生のときからずっと週に3回先生が家で授業をしてくれる訪問生でした。それは、私が人工呼吸器をつけていて学校のスクールバスに乗れなかったり、呼吸器の子は学校でもお母さんが付きそわなければならないため、仕事をしている私のお母さんは私といっしょに学校には行けないからです。

たまにスクーリングで学校には行ったけど、本当はもっとたくさん学校に行ってお友達と勉強したり遊んだりしたかったです。そんな私にかわって学校で英語の授業に出たり、光明祭の予行練習に参加してくれたのが分身ロボット「オリヒメ」です。

オリヒメがあれば家にいてもクラスのお友達の顔が見れます。ジェームス先生に「momoka」と声をかけられたり、質問に答えたり、手を上げたり手をふったりもできます。

たまに電波が悪くて、つながらなかったり、と中でと切れたりもあったけど、オリヒメを学校とつなげる日は楽しかったです。英語だけ



OriHime と一緒に

じゃなくていろんな授業にも参加できたらもっと楽しかったと思います。

(山田 萌々華)

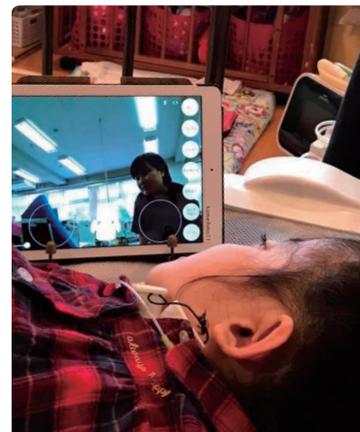
昨年度、在宅訪問教育を受けている児童の「学習機会の拡充」や学校行事への参加等「学び合いの機会の確保」のため分身ロボットがと東京都でモデル事業として導入され、指定校として光明学園が、そしてモデル事業対象者として娘がやらせて頂くことになりました。

以前から OriHime に興味があった娘は大喜び。月に数回ある英語の授業に参加したり、もみじの家から学園祭の予行練習に参加したり、まるで自分が教室の中にいるかのように周りを見回してクラスに溶け込んでいました。

本来は学校に通えることが1番いいのですが、訪問生が通学生と共に学べる機会の拡充に向けて新たなコミュニケーションツールとしての OriHime を活用することで、学校に行きたくても行けない娘の世界が大きく変わったことは間違いありません。

この先、外に出ることが難しい訪問生たちにとって OriHime が頼もしい相棒になってくれることを期待したいです。

(山田 美樹)



教室が見えます

財団の支援活動より アロマボディトリートメント

キッズファム財団とご縁を頂戴し、本当に沢山の皆様方にご利用頂きました。普段はご自身のために時間を使うことも、ゆっくり睡眠を取ることもままならないお母様方がほとんど。貴重なお時間を使って頂くからには、日頃のお疲れや心身の不調など全てクリアにして明日からの活力を養って頂けるように、と全力で努めております。

お体やお気持ちの状態をお伺いしてアロマをブレンドし、腰痛でお悩みの方には腰痛の体操やほぐしを行い、普段なかなかお手入れに手が回らないかかとのケアも行い、アロマトリートメントに入ります。お子様のケアで凝りがちな首、肩、背中、ふくらはぎもしっかりほぐし、施術後には皆様老廃物がすっかり抜けてお顔もスッキリ。顔色がとても良くなられ、「体が軽くなった！スッキリしました！」「本当



施術シーン

アロマセラピスト 嶋倉 涼子

に気持ち良かった！リラックス出来ました。」「ぐっすり眠っちゃいました！」「沢山お喋り出来てとっても楽しかった！心も体もデトックスできました！」と、沢山の嬉しいお言葉を頂いています。

それが私の何よりの励み。素敵なお母様方と初対面とは思えないほどお喋りが弾んだり、悩みを打ち明けてくださったり、私自身本当に素敵な時間を過ごさせて頂いています。

ご尽力頂いている財団事務局の皆様、ボランティアの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも沢山のお母様方に少しでも楽になって頂けるよう頑張ります！お母様方との出会いを楽しみにしております。

※財団では昨年度より「もみじの家」を利用中のお母様を対象に、日頃の疲れを癒していただくことを目的としてアロマボディトリートメントへのご優待サービスをご紹介します。



令和元年度事業報告

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用料の支援（支援件数 189 件）
- 2) もみじの家等短期滞在施設利用者家族への家族写真プレゼント（ファミリーフォトプロジェクト 54 件+夏まつり 17 件）
- 3) もみじの家利用者家族へのタオル無償提供（利用者家族全員）
- 4) キッズファミ・カフェの実施（実施回数 44 回）
- 5) 各種イベント等への招待（クッキングサロン、アロマボディトリートメント、ミュージアム）

2. 啓発事業

- 1) 講演会の開催
10月27日「“支える”“支えられる”ということ」村木 厚子氏、小林信秋氏、「ミニコンサート」増田太郎氏・国立成育医療研究センター講演
- 2) 写真展の開催
4月1日～1月31日、3月17日～3月31日 国立成育医療研究センターロビー、5月10日～11月29日 川崎モアーズ地下2階ホール、8月2日 公益社団法人生命保険ファイナンスアドバイザー協会（JAIFA）夏季セミナー、10月19・20日 大妻女子大学学園祭、11月10日 新宿区立こども総合センター（“ここ・から”まつり）、1月27日～2月7日 NHK 技術研究所ギャラリー
* 12月9～18日 砧南中学校3年生 “いのちの授業” で写真パネル使用
- 3) コンサート等イベントの開催
①カフェ 183 チャリティライブ
4月17日 ヘルマンハーブ、6月19日 ボーカルとバイオリン、8月21日 アコーディオン、10月16日 クラリネットとピアノ、12月18日 歌とキーボード、2月19日 パーカッションと歌
②チャリティコンサート
1月13日ピアノ 中村天平様、歌 宇都宮直高様・・・成城ホール
- 4) 財団の活動紹介
①通信の発行… 6月に通信 No.5 発行、12月に通信 No.6 発行
②ウェブサイト、フェイスブックを通して情報発信
③リーフレットの改訂…9月
- 5) その他
①へるす出版「小児看護 5月号」へ投稿 巻頭カラーページに掲載（ファミリーフォトプロジェクト）
②8月4日 TMC（東京メディアシティ）商店街主催夏祭り参加

3. 研修事業

- 1) 地域で医療的ケア児と家族のケアを担当する人たちを対象とした研修会
2月3日「重篤な疾患をもつこども・家族と“これから”について話し合う」講師：余谷暢之先生
- 2) 家族支援研修会
医療的ケア児・者と家族の主張コンクール（3/24）・新型コロナウイルス感染症のため中止
- 3) 財団メンバーを対象とした研修会
8月23日 折り紙（薔薇“川崎ローズ”）講習会
- 4) 研修事業助成のあり方に関する検討
国立成育医療研究センターと本年度の契約について（6月）

4. 連携事業

- 重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
- 1) 施設見学
①たがやせ大蔵（ディサービス施設）4月8日
②大妻女子大学福祉学科（多摩キャンパス）実習施設 7月19日
 - 2) 学会、交流イベント等への参加
①砧地域社会福祉協議会主催情報交換会参加 計7回
②世田谷区立砧南中学校3年生を対象とした「いのちの授業」見学 9月20日
③砧地区みんなの交流会「老年学から考える高齢期」10月21日
④EAJ 医療アシスタンス講演会 11月30日
⑤東京都光明学園第3回全国公開研究会 2月7日

5. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
- 2) 企業や団体への働きかけ
- 3) バザー、コンサート、その他イベント等による働きかけ
- 4) ウェブサイトの活用
- 5) その他“お宝エイド”の活用

6. 公益法人化に向けた準備、検討

- 1) 公益法人に関する情報収集
- 2) 公益法人化に向けた財団運営に関する再検討及び整備

7. その他

- 1) 役員変更に伴う事務手続き・・・喜谷昌代理事長の退任と新代表理事の決定、柳澤正義理事退任
- 2) 前理事長「お別れの会」実施・・・10月17日（木）レストラン “つばさ”
- 3) 前理事長に関する書籍の出版に向けた検討、準備
- 4) 前理事長が関わっていたプロジェクトに関する検討

※事業実施報告の詳細につきましては財団ウェブサイトをご参照ください

令和2年度事業計画

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用者及び家族へ支援
①施設利用料の支援
②ファミリーフォトプロジェクト
③タオル無償提供
④キッズファミ・カフェの実施
⑤各種イベント等への招待
- 2) 在宅医療ケアを必要とする子どもとその家族を支える事業を実施する団体への支援に向けた検討
①重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
②Kidani スペシャルキッズプロジェクト
③喜谷昌代記念こども発達支援センター
④福岡子どもホスピスプロジェクト

2. 啓発事業

- 1) 講演会の開催
- 2) 写真展の開催
①国立成育医療研究センターロビー
②公共施設、学校、商業施設等
- 3) イベントの開催
①チャリティコンサート
②カフェライブ
③バザー
④その他
- 4) 喜谷昌代前理事長に関する書籍の出版
- 5) 財団の活動紹介
①通信の発行 2回/年度（6月・12月）
②ウェブサイトの活用
③リーフレットの改訂

3. 研修事業

- 1) 地域で医療的ケア児と家族のケアに携わる人たちを対象とした研修会
- 2) 家族支援研修会
- 3) 財団メンバーを対象とした研修会
- 4) 研修事業助成のあり方に関する検討

4. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
- 2) 企業や団体への働きかけ
- 3) 募金を主目的としたイベントの開催
- 4) 募金箱の設置
- 5) ウェブサイトの活用

5. 公益法人化の検討

公益法人に関する情報収集

令和元年度決算報告

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額	備考
I. 経常収益		
1. 基本財産運用益	255	
2. 受取会費	1,839,000	パートナー会員（10,000×112口） ボーター会員（3,000×173口） 法人会員（100,000×2口）
3. 受取補助金等	770,317	
4. 受取寄付金	18,425,596	
5. 雑収益	621,286	
経常収益計	21,656,454	
II. 経常費用		
1. 事業費	4,567,828	
1) 支援事業費	1,572,288	利用料支援、ファミリーフォト等
2) 啓発事業費	2,694,527	講演会、写真展、通信発行等
3) 研修事業費	301,013	
4) 連携事業費	0	
2. 管理費	10,972,379	事業に関わる人件費含む
経常費用計	15,540,207	
経常外費用計	0	
当期一般正味財産増減額	6,116,247	
当期指定正味財産増減額	2,939,328	
正味財産期首残高	15,955,690	
正味財産期末残高	25,011,265	

History of KIDANI 〈6〉 英国にて

当財団前理事長、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。今回は英国での話です。

7年間のベルリン生活の後に、英国に行きました。

英国赤十字はすでに香港支部で経験したことの続きなので、すぐに仕事に就け、緊急看護の教員、ハンドケア（ご老人や盲人の方の手を洗い、爪を切り、ファイルをかけ、マッサージをし、希望があれば爪を塗る）などをしました。

福祉用の救急車に障がい者や老人を乗せて、病院、家族訪問や買い物に行く“DrivingGroup”にも所属しました。

赤十字センターの責任者、支部のアドバイザー、本社の国際募金委員になる等、様々なボランティア活動をおこない、アスコット赤十字の開所式では、エリザベス女王をお迎えしました。

そして、1991年に、喜谷が後世一番力を注いだ“MOMIJI(もみじ)プロジェクト”を立ち上げたのです。

“MOMIJIプロジェクト”とは、障がいを持つ、あるいは重い病気に苦しむ子どもたちと若者たちの日英交流プロジェクトです。

喜谷のこれまでの経験を活かし、住んでいる英国と祖国である日本とを結ぶプロジェクトを始めたいと思うようになったのです。

「障がいがあっても病気であっても、外国を知り、外国に友達を持ち、お互いの理解を含めてゆくことは有意義なことだ。」「どんなに苦しい時でも、地球の反対側に同じ苦しみに耐えている人がいると思うだけで、自分の苦しみが半減する。」と考えたのです。

11回にも及ぶ“MOMIJIプロジェクト”の活動内容については、次号で触れたいと思います。



エリザベス女王をお迎えして

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2019.10.1～2020.3.31)

敬称略

青盛 道子 / 秋山 正子 / 朝野 春美 / 安藤 愛子 / 安藤 美鈴 / 飯泉 希世子 / 飯澤 寛美 / 五十嵐 隆 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 池田 琢哉 / 石井 恒樹 / 石岡 泰子 / 石原 晶世 / 五十子 敬子 / 市川 おさと / 市橋 良子 / 伊東 啓介 / 伊藤 美子 / 伊藤 優妃 / 伊東 洋子 / 伊藤 雅彦 / 伊藤 啓子 / 稲垣 功一 / 稲垣 いく子 / 伊野 公基 / 岩佐 敏子 / 岩下 奈々絵 / 岩田 啓子 / 岩垂 明子 / 植田 栄子 / 上野 博 / 榎本 さわ子 / 大川 周二 / 大和田 明美 / 沖山 邦子 / 奥芝 彰子 / 奥野 英子 / 尾鍋 正子 / 小野 篤子 / 小野 登美子 / 小俣 恵美子 / 折田 正樹・昌子 / 片倉 七サ / 片山 ます江 / 勝川 恵子 / 加藤 知子 / 加藤 幸子 / 加藤 祈世子 / 川瀬 英子 / 川西 明子 / 木内 公夫 / 菊地 博信 / 岸本 晃子 / 喜谷 和夫・美子 / 喜谷 辰夫・由紀 / 喜谷 伊都子 / 鬼頭 とし子 / 絹山 豊子 / 木村 幸子 / 工藤 加寿子 / 窪田 満 / 熊谷 一夫・澄子 / 熊野 喜子 / 栗原 幹雄 / 児玉 桂子 / 児玉 美喜子 / 後藤 祥子 / 近衛 忠輝・甯子 / 小林 京子 / 小峰 万木子 / 込田 邦子 / 近藤 和美 / 近藤 民子 / 近藤 陽一 / 佐鹿 博信・孝子 / 佐藤 千鶴代 / 佐藤 マリ子 / 佐野 千宏 / 島谷 美成 / 清水 佳代子 / 白木 登美子 / 新藤 由喜子 / 杉浦 花音 / 鈴木 裕紀子 / 鈴木 祐子 / 鈴木 文子 / 高島 渉 / 高田 尚子 / 鷹鷲 満一 / 高橋 貞二郎 / 高橋 敬子 / 高橋 昭彦 / 高山 香奈江 / 滝口 結菜 / 竹本 佳代 / 立花 基子 / 田中 久美子 / 田中 弥生 / 田原 康生 / 玉井 祥子 / 月岡 威 / 土田 和子 / ディサロ 水城 / 富和 清隆 / 内藤 喜和子 / 中尾 あぐり / 中島 典子 / 中谷 桂子 / 永峰 涼子 / 中村 芳子 / 成瀬 佐和子 / 西田 大

介 / バーチ ヤスヨ / 服部 照子 / 服部 真二 / 原田 京子 / 久田 辰夫 / 久本 麗子 / 日高 淑子 / 平沼 泰三 / 吹浦 忠正 / 福山 照子 / 福山 諭 / 藤井 みすず / 藤原 牧季 / 古澤 育恵 / 星 由紀子 / 堀江 ひろ子 / 前田 知子 / 前田 浩利 / 前田 和恵 / 増田 とも子 / 松永 泰子 / 丸山 栄子 / 三浦 文子 / 三木 八千代 / 三ッ本 香澄 / 三本 明子 / 村尾 奈央 / 村田 久美子 / 森 卓 / 森 明子 / 森部 加奈子 / 森山 邦代 / 柳田 千代美 / 山田 史郎 / 山羽 啓子 / 湯川 れい子 / 吉田 陽子 / 渡辺 慶子 / Toyoko Fry / (イニシャル)AK / AT / HY / SF / YM / 匿名 12名 / (お宝エイド) 池本 喜代正 / 沖山 邦子 / 岸井 淳子 / 木村 福美 / 小山 知子 / 鷺池 聡子 / 塚本 友歌 / 中元 麻結 / パーランド 和代 / 原田 真美 / 渡辺 美佐子

ご寄付いただいた企業・団体

株式会社 秋田医科器械店 / 株式会社 ヘルス / 株式会社 ロッテ / 公益社団法人 程ヶ谷基金 / 公益財団法人 原田積善会 / 首都開発株式会社 / 聖心会三光町修道院 / 聖心女子学院みこころ会 / 聖心女子学院 もゆる会 / 世田谷稲門会地域サポート活動部会 / テームズ会 / 東京アーバンコンサルティング株式会社 / 日航スチュワーデス OG 会 / 日本ポーセリンペインターズ協会

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000円
- ② パートナー会員 1口 10,000円
- ③ サポーター会員 1口 3,000円

※ 1口からお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替
00140-0-420461
2. 三菱UFJ銀行 成城支店
普通 0233800
3. クレジット決済 (QRコード) →



—お知らせ—

- ★ 新型コロナウイルス感染症発生のため開催を取り止めた「第3回医療的ケア児・者と家族の主張コンクール」は、9月に開催を予定しています。開催の方法また詳細につきましては、財団のウェブサイトでご案内いたします。
- ★ Tポイント募金にご協力をお願いいたします。Tポイントカードをお持ちでしたら、ポイントを募金いただくことが可能です。下記のウェブサイトからお手続きいただけます。
<https://tsite.jp/donation/>

おかげさまで…

みなさまに愛される

街角の募金箱

国立成育医療研究センターに入るとすぐに、“総合案内”の赤白カウンターが目に入ります。初めてセンターを訪れる方の多くが立ち寄り場所です。そのカウンターに2016年8月より募金箱を置かせていただいています。これまでの4年間、募金箱が空になることはなく、募金していただいている状況が続いています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のあたたかいお気持ちを思いつつ、財団の活動に大切にに使わせていただいています。



編集後記

キッズファム通信 No.7 をお届けいたします。今年2月以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて財団の活動も限定されてしまいました。「もみじの家」も利用が休止されたためキッズファムカフェやファミリーフォトプロジェクトも休止となりました。1月に「親子で楽しむチャリティコンサート」が実施できたのは幸いでしたが、今後同じような形でこういったイベントの実施が可能かどうか分からない世の中になってしまいました。でもピンチはチャンス。これまでとは違った活動方法を模索しながら、今後の活動を考えていきたいと思えます。新しい形になっても皆さまのご参加とご協力をよろしく願いたします。(大川)



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファム財団)

〒157-8535
東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください